

# 蒼生

そう せい

10 2023年  
月号

## モーツアルトの生い立ちと死

名誉院長 飯島崇史

外国旅行、これまでいったい何回行ったろうか。すべての始まりは新婚旅行のロンドン、ローマ、パリ、ウィーンを巡る旅からだった。当時勤務先に迷惑をかけるので、ハワイ程度を考えていたが、新婦はヨーロッパにこだわり、だめなら結婚しないとまで言いきったため、上司に頼み込んで2週間の休みをもらった。これが最初で最後だろうと。しかしその後、国際消化器病学会発表でアムステルダムに行ったのを皮切りに、海外には何度も行くこととなった。当初は皇帝の治めた国に目が向いていた。そこには戦利品として持ち帰った美術品など価値あるものがたくさん博物館などに収蔵されているから。当然文化度も高く、有名なコンサートホールもあった。次に興味を持ったのは自然遺産のすばらしいところで

あった。オーストラリアのサンゴ礁グレート・バリアリーフで見たナポレオンフィッシュに感動したり、アラスカのデナリ国立公園の雄大な自然の中に身を置いて感銘を受けたりもした。そして最後にシルクロードに行き着いたのである。平山郁夫美術館長・平山助成氏（故平山郁夫画伯の実弟）とともに画伯のスケッチポイントを巡る旅で、仏教伝来の歴史に触れ、敦煌、アンコールワット、ネパールなどを巡り、仏陀の生誕の地にも足を運び、貧しいながらもそこで出会った子供たちの目の輝きを見て、日本の子供たちのそれとつい比較してしまった。

文化圏で朽ちることなく、歴史的建造物であふれている。パリ、ローマ、などは巨大都市だが、ウィーン、アムステルダム、ブダペスト、プラハなどは手ごろな大きさだった。ウィーンは芸術の都にふさわしくリングと呼ばれる環状電車道（その昔二度にわたりオスマントルコに攻め込まれたとき、かろうじて城壁で食い止め、のちにその城壁が不要になると、市電の走る電車道に作り替えられたもの。モーツアルトの小曲に、かわいらしいトルコ行進曲があるが、オスマントルコの雰囲気とは異なるようだ）の周囲に市庁舎、国会議事堂、ブルグ劇場、自然史博物館、美術史美術館、ウィーンフィルの本拠地楽友会館等があり、周辺には映画第三の男の大観覧車で有名なプラーター公園、芸術家など有名な人の墓があるウィーン中央墓地がある。特にこの特別名譽地区には、ウオルフガング・アマデウス・モーツアルト（墓

碑番号55番、死去当時の埋葬地が不明のため墓碑のみ）ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（29番）フランツ・シューベルト（28番）ヨハン・シトラウス二世（27番）ヨハネス・ブラームス（26番）等が葬られている。後にもう一度述べるが、子供の頃神童と呼ばれ、わずか30数年の短い人生のうちに700曲近くの作品を世に残したモーツアルトではあったが最後は誰にも看取られることなく共同墓地に投げ込まれ身元不明で、埋葬地も確認できない有様であった。10数年後に死亡したベートーベンやシューベルトに対しては多くの市民がその死を悼み、会葬者が後を絶たなかったのと比べて、あまりに悲惨であった。一説によると、死の前夜、彼がメロディを口ずさんだのは未完のレクイエムと5歳の時、最初に作曲して晩年、魔笛のバグデーノのアリアでも使ったメロディであったそう

ウィーンはオーストリアの東、チエコスロバキアに近く、ザルツブルグはチロル地方に近く、ドイツのミュンヘンに近い。この街はウォルフガング・アマデウス・モーツァルトが生まれ育った街でもある。また、この地で催されるクラシックフェスティバル（ザルツブルグ音楽祭）は世界中のクラシックファン垂涎的であり、福山医療センター小児外科医長であった長谷川医師も、タキシードに身を包んでしばしば参加していたそうだ。また、カナダでサミットが開催されたとき、終了後ドイツのシュレーダー首相が小泉首相に近寄り、あなたの政府専用機に同乗させてほしいと頼み込んだ。その夜サッカーワールドカップのドイツ戦が日本で開催されるので応援に行きたいと。小泉首相は快く了承し、補佐官を一人降ろし、かわりにシュレーダー首相を乗せた。後日、クラシック音楽好きの小泉首相にザルツブルク音楽祭の招待状が届いた。音楽祭に参加したこ

とはないが、モーツァルトが、幼少期を過ごした家は訪れたことがある。モーツァルトは1756年1月27日宮廷音楽家レーオポルト・モーツァルトとその妻アンナ・マリーア・ベルトウルの嫡出子として生まれ、3人の息子と4人の娘がいたがいずれも早世し、三女のナンナールと末っ子ヴォルフガングのみ残った。生家は周りと同じ5階で壁の色は黄色。クラヴィーアが一台置いてあり、父が7歳の姉に教えているとき、3歳のヴォルフガングは食い入るように見つめ、姉の練習の合間に自ら3度の和音をひいてその音に聞きほれていたという。その後父の手ほどきを受け5歳で作曲、6歳から演奏旅行で各地を回り神童の名をほしいままにした。有名な逸話として、ハプスブルグ家の女帝マリア・テレジアに抱っこされたとか、シエーンブルン宮殿の磨き上げられた廊下で滑って転んだ際、マリー・アントワネットに手を差し伸べられ「僕のお嫁さんにし

てあげる」と言ったなど。その他、ミュンヘン、パリ、ロンドン、ウィーンなど旅を続け、ゲーテ、クリステイアン・バッハ、ベートーベンなどと親交を深めた。そしてインスブルックから1730mのブレナー峠（左右の山々は3000〜3600m）を超えて憧れの青空の国イタリアへは計3回、旅を続けた。しかし22歳の時パリで母を亡くし、26歳の時コンスタンツェ・ウーバーと結婚し、子はなしたが父レーオポルト没後、経済状態悪化。自らの病状も思わしくなかったが、「魔笛」を上演。最後にレクイエムの執筆に取り掛かったが、未完のまま35歳の若さで1791年12月5日ウィーンにて妻にも看取られることなく没した。明るい軽やかな曲調とは裏腹に、晩年（というほどの年ではないが）ウィーンには見放されたような結末となった。中央墓地の特別名譽地区の中央にひとときわ立派な遺骨のない記念碑だけが虚しく建っているのが象徴的だった。

先日、驚異的で、ハードカバーの本、当日介護 一日一冊以上読破する。私が療養病棟 毎週自宅の書斎から10冊づつに入院し 持つてきてはお貸しすることをしていた高 繰り返し、読了した数はすでに600冊は越えたのではないか。読み終えた本をH・Sさんに回すことにした。そのうちH・Sさんから「家にある「日本古典文学全集、小学館」全50巻が邪魔で処分しようと思うのだが、もらってくれませんか？との申し出があった。私は読書も好きだが多種多様な本を収集するのも好きなので、ありがたくお受けすることにした。確かに場所を取って邪魔になるといふ言い分がわからないわけではないが、貴重な文献が手にはいったことにかわりはない。持ち主にとつても手放すにあたっては愛着のある本は特に、その後の行き先がきになるはずだ。日本の古典文学のほぼすべてを網羅しており、数十年前高価な全集をすべて買い揃えるにあたっては、相当の決心



運びとなった。退院にあたり、便せん7枚に及ぶ丁寧なお礼の手書きのお手紙をいただいた。普段から書き慣れているのであろう、文字に乱れもなく、論旨もしつかりしている。この方は読書好きで入院中も幅広く本を読めたらと思っていたところ、自宅から持参の本は数に限りがあり、あきらめていたそう。あるとき私が、「命ある限り読書が続けたいと思ってる」100歳になる超高齢婦人N・Kさんから頼まれて、本をお貸ししていることを聴き及び、「わたしにも貸してください」と言ってきた。この100歳のN・Kさん。読むスピードは

驚異的で、ハードカバーの本、当日介護 一日一冊以上読破する。私が療養病棟 毎週自宅の書斎から10冊づつに入院し 持つてきてはお貸しすることをしていた高 繰り返し、読了した数はすでに600冊は越えたのではないか。読み終えた本をH・Sさんに回すことにした。そのうちH・Sさんから「家にある「日本古典文学全集、小学館」全50巻が邪魔で処分しようと思うのだが、もらってくれませんか？との申し出があった。私は読書も好きだが多種多様な本を収集するのも好きなので、ありがたくお受けすることにした。確かに場所を取って邪魔になるといふ言い分がわからないわけではないが、貴重な文献が手にはいったことにかわりはない。持ち主にとつても手放すにあたっては愛着のある本は特に、その後の行き先がきになるはずだ。日本の古典文学のほぼすべてを網羅しており、数十年前高価な全集をすべて買い揃えるにあたっては、相当の決心

もしくはこの分野に関心があったはずである。頂いたからには大切に有効利用させてもらうつもりである。

さらにH・Sさんからの手紙には読書感想文が付いていた。免疫学者多田富雄氏には勇気づけられたと。春江一也氏には社会主義国の怖さを、そして「僕の愛した歌声」で椿姫の aria を歌うシーンでは自然と涙がこぼれて止まらなかったという。山崎豊子氏の二つの祖国では祖国を探し求めた日系二世の運命が描かれ、中野幸次氏の良寛さま；人は知らず知らずのうちに自分というものを顧みさせられる反省となると知ったと記してある。阿川弘之氏の「葦の髓から」では日本人の技術について、老人施設で実用化が待たれると。浅田次郎氏の「流人道中記」は姦通の罪を犯した流人と押送人の珍道中記。「赤猫異聞」も、何とも言われぬ楽しいものがあり。その他、福山老人大学学長閑谷雅行氏、五木寛之氏、柳田邦男氏、湯木貞一氏、和田竜氏、葉室麟氏、見延典子氏、梅原猛氏、妹尾河童氏、塚本哲也氏、青木玉氏、C.W・ニコル氏、開高健氏、等々「たくさんの作

家の本を読ませていただき、痛い、苦しい病院生活に希望と明かりを灯していただき、ありがとうございます。」と結んである。さらに、「本を読んでみたいという人が4〜5人はいたので、病院に図書室を作っていただけると嬉しい」とも記してあった。

しかしH・Sさん、図書室はあったのですよ。開院時は二階の小会議室に。その後は療養病棟の一階に。主に医学雑誌や看護の専門書、私の寄贈した小説などの一般書を、貸出ノートに記載して事務管理としていた。ガラス張りで外からも見えるようになっていましたが、職員はじめ利用者が全くいなかったため、半年ほど前に撤去した経緯があります。今回のお二人は特別な様な気がします。文字や言葉に親しむのはよいことです。特に長期入所の高齢者にとっては。認知症防止の観点から是非お勧めしたい。療養病棟のお楽しみ会、久しく中断していたが、再開を予定しています。むずかしいものばかりでなく民話の絵本や紙芝居の準備もしていますので、その節にはぜひ参加してみてください。

## ゆめしま海道旅行記

名誉院長 飯島崇史

さまざまなサポート体制を整えるよう工夫してい

夏休みで子供が帰ってきた。金沢から次男と小学5年の孫が。中学一年の長女は合唱コンクール参加のため今回は見合わせるとのこと。孫と息子はゆめしま海道を自転車ですり、途中一泊、その後後で二泊目の予定とか。私はパーキンソン病の調子がよくないので見合わせようと思ったが、一緒に行こうと誘われ、一部車で伴走を兼ねて同行することにして、自分の自転車を車に積み込んだ。

しまなみ海道は尾道から今治まで全長60kmで西瀬戸自動車道と生口島道路、大島道路の総称でゆめしま海道はしまなみ海道の東側、愛媛県上島町の島々(弓削島、佐島、生名島、岩城島)がそれぞれ橋でつながっている。しまなみ海道は尾道から向島、因島、生口島、大三島、伯方島、大島を経て今治に至る。いずれも日本ではめずらしいサイクリングロードで、広島、愛媛の両県知事が自転車走行にさ

る。息子と孫の自転車をレンタルする前に、生口島の平山郁夫美術館を敬訪問した。受付で尋ねると本日平山助成館長は在席とのこと。久しぶりに会ってお元氣そうな姿を拝見。館内を案内していただいた。前回拝見した時から新たに敦煌莫高窟の275窟の精密複写模型が展示されていた。以前、敦煌を訪れた時の感動が再びよみがえるようだった。

近くに村上水軍ミュージアムがある。資料室には当時の関係歴史書や、コミック全15巻などがおいてあり、自由に閲覧できた。孫はコミックで息子は和田竜の村上海族の娘を読んで村上水軍の知識をすでに得ていた。村上水軍は、能島、来島、因島の三島に分かれて勢力を競っていた。能島村上水軍の大将村上武吉の墓は山口県の大島にあり、以前、墓参したことがあった。まもなく近くの波止場から「渦潮体験クルーズ」の船が出るとい

乗船すると大型エンジンの重厚な音を響かせ、防波堤のそとへ。鳴門のような大きな渦は見えないが、潮の流れは速そうだ。エンジンを止めると船は流される。速歩より少し早い程度。大型エンジンだからよいものの、昔の手漕ぎ船でコントロールするのは大変であつたらう。来島瀬戸を航行するには水先案内人が必須であつたはずだ。とどこどころ高台に物見やぐらを兼ねた城砦跡がみられる。

台風雨がぱらつきだったので、レンタサイクルショップで次男と孫の自転車（タウンバイクとマウンテンバイク）を借り、フェリー乗り場へ。弓削島へむかった。国立弓削商船高専の校門の前を過ぎ急な坂を押し上ると、宿泊地インランドシーリゾート「フェスパ」の駐車場。昔の国民宿舎を改築したものとのこと。大浴場と部屋から見る朝日（ご来光）が売り物らしい。受付カウンターに若い女性が二人いたが、接遇の訓練が十分できていないようだ。私が歩行器具にすがって入り、駐車場の家内が荷物運搬に難渋しているといっても、台車をすぐ手配することもなく、ぼん

やり立っている。サービス業である宿泊施設の職員とはとても思えない。しかし部屋から見た朝日の眺望は素晴らしかった。翌日は急坂を避けて、弓削大橋と生名橋を自転車走行したが、生名橋のたもとで転倒したため自転車走行はあきらめ、因島土生港のレンタサイクルショップで返還した。以後車で道後温泉に。

道後温泉の宿は落ち着いた雰囲気で、職員の接遇も申し分ない。明かりを抑えたたたずまいで、内風呂はヒノキの浴槽。雰囲気は「暗がり」と「翳り」の世界。何か関係があるのだろうか。大川裕弘氏の写真ビジュアルブック谷崎潤一郎の「陰翳礼讃」と、斎藤茂吉の詩集「赤光」がおいである。ゆつくりと落ち着いた時間を過ごし、翌日はとべ動物園。園内は広いので車いすを利用。息子に押ししてもらい、ここでも落ち着いた休日を過ごすことができた。以前吹田の万博公園を訪れた際は長男が車いすを押ししてくれたが、今回は次男が。病で体は不自由だが毎年子供や孫に付き添ってもらい旅ができる幸せを感じている。

## 為せば成る

名誉院長 飯島崇史

人展を開くと案内があつた。

これは江戸時代米沢藩主上杉鷹山の有名なことばで「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」と続く。その大意は「どんなことでも、強い意志をもつてやりぬけば、必ず成就するというもの。この度、当院の患者様でこの言葉を実践し、目覚ましい成果を収めた人がおられたので、ここにご紹介してみようと思う。

そのかたはY・Yさん1940年生れの83歳。岡山の方で趣味は絵画。チャーチル会という油彩の愛好会に所属しているが、眼瞼下垂に悩まされ2015年7月22日入院され形成外科手術を受けられた。入院中にたまたま病院広報誌「蒼生」を目にされ、理学療法士が書いた記事、「3分エクササイズ」をやってみて

簡単なのでその後も自宅で毎日30分くらい続けたそう。素晴らしなのは持続期間。その後毎日現在に至るまでなんと7年間継続しているという。

この度、東京の画廊で友人と二

東京まで行くのは無理なので、東京在住の知人を紹介して行つてもらった。素晴らしい作品であつた。ご本人からも紹介してもらつてありがとうございましたと連絡が入ったが、文面の末尾に「自分は83歳だが、リハビリを続けているおかげで、腹筋が割れるほどになり、夜中まで絵筆を握っても疲れることがない。入院時にたまたま広報誌を見て運動を続けたおかげで素晴らしい結果を得ることができた。理学療法士の方にぜひ感謝の気持ちを伝えたいとの伝言があつた。そう、何事においても継続が大切だと、改めて私も教えられた。

2001年4月に広報誌「蒼生」を発行して今回の7月号でNo.90となった。その間掲載した私の文章を「行雲流水抄」と名付けた私費出版本2冊にまとめて上梓。文書の数も123本を数えるまでになった。継続が大切だといったが、ここまで来ると終わる時期、終わり方を考えなくてはならない。どうしたものか。

# フットケアのすすめ

透析看護師 芝岡 美奈子

私がフットケアに出会ったのは約20年前です。当時は透析クリニックに勤めており、フットケアの重要性を知りながらも業務に追われ、月1回のフットチェックさえも定着しない状態でした。そんな時、ある患者さんが白癬（水虫）をほったらかしにして感染を起し、2日の間に5本指全部が真っ黒に壊死して下肢切断という事態になってしまいました。私は大きな衝撃を受けました。定期的な足の診察と危険度の分析ができていれば下肢切断の80%は防げるというデータもあるそうです

が、この患者さんには足に対する教育が全くできておらず、もし足病変（足におこるトラブルの総称）についてきちんとお話しできていれば、下肢切断には至らなかつたかもしれません。それからは「二度と同じことはしない！」と心に決め、勉強

会に行ったり爪切りグッズを購入したりしましたが、勉強会でも納得する爪切りの方法には出会えず、長い爪をどこまで切るべきか？分厚い爪をどこまで削るのか？皮膚との境界がわからない爪をどうしたらいいのか？巻き爪で痛みがある場合、どうしてあげるのがいいのか？疑問ばかりでした。

ちょうどその頃、日本フットケア協会の八塚美樹先生にお会いし、爪のバランスのとおり方、切り方、フットマッサージ、巻き爪で痛いときの応急処置、などなど教えて頂きました。先生のお話のなかで印象的だったのが「寝たきりの高齢の方の分厚く肥厚した爪を切り、フットマッサージをすることで言葉を話すようになった」というもので、交感神経が刺激され、脳が活性化したというようなお話だったかと思うのですが、と

にかく衝撃を受けました。えー？爪切りで？？と思われ、るでしょうが、爪の肥厚は圧迫、加齢、深爪、ケア不足などが原因です。加齢に加え寝たきりで動かさず、入浴もできずケア不足で血流が悪くなっていたとしたら、声をかけ爪を切つて刺激を与えることで血流が良くなり、脳が活性化されて言葉が出たのかもしれない。この時、若かった私は非常に感化されやすく「自分にもできるかも！」「自分もそんな体験してみたい！いや！できらんじゃない？」とフットケア心は燃え上がりました。

しかし残念ながら未だこのような体験はしたことがありません。簡単に経験できると思っていた自分が恥しい限りですが、そういう経験はなくても先生に教えてもらったように爪を切つてマッサージして保湿するだけで、足はとつてもきれいになるんです。その度に「ありがとう」と言つて喜んでもらえるのが嬉

しくて、爪切りに困っている方がおられたら積極的に切らせて頂くようになりました。爪切りだけでなく巻き爪の治療や胼胝（タコ）鶏眼（ウオノメ）の処置方法も学びましたが、実際は教科書通りではありません。やはり臨床で足を見させて頂いて、処置をさせて頂くことが一番勉強になりました。

楠本病院に入職してからも爪切りをたくさんさせて頂きました。写真は「あれ？という間に爪が伸びて切れなくなり、どうしていいかわからなくなりました。」と相談された方の足の爪です。左足は少し整えただけです、右はがつつり切らせて頂きました。その後グラインダーという爪を削る器具を使って整えています。すっきりしたと思いませんか？



普通爪切りでは切れない厚さになった爪はご自身で切るのには難しいと思います。また、足まで手が届かない、視力が低下した、手の力がないなど切れない理由は様々あると思います。そんな時にはぜひご相談ください。「汚い足でごめんね」と言われる方も多いのですが、私はまったく気にしません。お風呂に入つていなくても、水虫でも大丈夫です！！私は、足が大好きです。爪切りに困らせている方、ぜひお手伝いさせてください。

「救急医療功労者知事表彰」を賜りました

院長 森末 正博

の構築並びに診療現場  
双方で一貫

広島県では、救急医療の課題に地域の先頭に立って取り組んできた団体、個人を称えるため、救急医療週間に「救急医療功労者知事表彰」として表彰式を実施しています。

令和5年度の表彰式は9月11日に開催され、私を含む2団体、3個人に知事から表彰状が授与されました。

当院は2003年に二次救急輪番病院の指定を受けて以来、積極的に救急医療に取り組んできました。7年前には団体として病院を表彰して頂き、3回目の表彰となる今回は以下のように評価して頂きました。

（主な功績）  
平成元年の救急告示指定以降、二次救急輪番所属病院の最多数の輪番日を担当、（院長森末は）緊急才への大半を執刀する等、救急体制

してその中心的役割を担い続けており、地区の救急医療体制に貢献。  
〈広島県ホームページより転載〉  
ここに来れば何とかしてもらえ、闇夜の灯台のような病院でありたいと先代理事長が掲げた理念のもと、できうる限り救急医療に取り組んで参りました。この度は個人表彰を頂きましたが、医師一人で行って来るものではなく、ここまで継続してこられたのは職員の皆の協力があつてこそです。病院全体を評価して頂いたと喜んでおります。



表彰状

森末 正博 様

点部門として力を入れ、職員一丸となつて当地区のニーズにしっかりと対応していく所存です。

先日ある弁護士が国際ロマンス詐欺の広告で「すべてお任せ頂ければ丸々と解決いたします」等表示したことが誇大広告に当たるとして懲戒手続にかけられたというニュースが出ました。これに絡んで弁護士会が「ロマンス詐欺の被害回復は極めて困難」「被害回収できないリスクが高いことを理解した上での依頼を」と注意喚起を行うという事態になっていきます。要するに弁護士会が「詐欺で取られたお金はまず返ってこないから弁護士に依頼しても無駄金を使うだけ」と言っているようなものです。

～プロムナード～

国際ロマンス詐欺の広告

士道法律事務所 弁護士 飯島 充士

が典型ですが、刑事事件全般についても同じことが言えます。私の事務所では刑事事件の被害者からの依頼を受け付けていませんが、これは依頼を受けても運任せとなり被害者が弁護士費用を無駄に払うだけとなるリスクが高く、被害回復できなかつた被害者が次は弁護士に怒りの矛先を向けてくるのが容易に予想されるからです。犯罪被害に遭つたときにもまずやるべきことは「弁護士に相談する」ではなく「警察に被害届を出す」です。それで刑事事件化すれば警察が勝手に加害者の特定に当たってくれて、警察の連絡を受けた加害者が示談に動きやすくなるからです。それで示談の提案があれば儲けもので、あまり欲張らずそこそこの金額で示談に応じれば無駄な費用を使わず被害を回復でき

この手の「訴訟提起すればほぼ確実に勝てるけれども現実にお金は返ってこない」という事案は結構あります。特殊詐欺（オレオレ詐欺）、投資詐欺といった詐欺系の事案

たつてくれて、警察の連絡を受けた加害者が示談に動きやすくなるからです。それで示談の提案があれば儲けもので、あまり欲張らずそこそこの金額で示談に応じれば無駄な費用を使わず被害を回復でき

きます。一方、加害者が示談を申し出てこないケースは被害者に資力がない等で交渉しても無駄なので弁護士に依頼したところで結果は同じ（むしろ弁護士費用の分だけマイナス）となります。ちなみに警察が被害届を受理しないケースは刑事事件化が無理ということなので諦めてください。ロマンス詐欺の話に戻ると、詐欺被害を相談するときには自分の首に「私は騙されやすい人間です」という札がぶら下がっていると思ってください。そういう人を言いくるめて期待を持たせて着金巻き上げるのはとても簡単なことです。こういうケースで弁護士に相談する場合は冷静な判断のできる親族等に同行してもらい、「回収はまず無理」という頭で、それでも自身の中で一区切りつけたい場合に限り弁護士に依頼をするようにしてください。